

第 41 回日本 TDM 学会・学術大会に参加して

大阪医科薬科大学 薬学部 薬学科

薬物治療学 I 研究室 鈴木慈奈

はじめに

私は、2025 年 7 月 26 日（土）・27 日（日）に大阪大学コンベンションセンター（大阪府吹田市）にて開催された第 41 回日本 TDM 学会・学術大会に参加し、ポスター発表および運営のお手伝いをさせていただきました。今回の学会は、私にとって運営、発表、そして学会への参加そのものが初めての経験であり、大変貴重な機会となりました。本報告書では、学会を通じて得た経験や学びについて記録いたします。

日本 TDM 学会について

日本 TDM 学会（Japanese Society of Therapeutic Drug Monitoring）は、1987 年に設立された学会であり、治療薬物モニタリング（TDM）に関する学理および応用の研究発表、知識・技術の交換、関連学協会との連携を通じて、医療と社会への貢献を目的としています。毎年開催される学術大会では、臨床薬学・薬理学・医療情報学など多分野にわたる研究者が集い、活発な議論が行われています。

ポスター発表について

今回の学会では、今年 4 月から取り組み始めた自身の研究テーマについてポスター発表を行いました。ポスター作成は初めての経験であり、研究内容の整理や図表の構成、視認性の工夫など、予想以上に時間と労力を要しました。しかしながら、これまでの研究の進捗を客観的に振り返る良い機会となり、現時点での課題や未解決の部分を明確にすることができました。

また、発表中には参加者の先生方からいくつかの質問をいただきました。私の研究は、薬物血中濃度の測定や予測モデルの構築といった従来の TDM の枠組みとは少し異なり、薬理活性を持たない代謝物が副作用に関与している可能性を探るという内容でした。そのため、「こういった視点は新鮮でした」「このような研究は初めて知りまし

た」といった感想をいただき、まだ十分に整理しきれていない段階の内容ではありますが、少しでも興味を持っていただけたことがありがたく、励みになりました。専門分野の異なる先生方とのやり取りを通じて、自分の研究をわかりやすく伝えることの大切さも改めて実感しました。

さらに、同じくクロザピンの代謝物濃度を測定しようとしている学生の方と情報交換する機会があり、LC/MS/MSを用いた測定に関する試行錯誤の話を伺うことができました。私自身も今後LC/MS/MSによる測定を予定しているため、非常に参考になり、今後の実験計画に活かしていきたいと感じました。自分では気づいていなかった視点や、研究の背景に対する新たな疑問を投げかけていただいたことで、今後の検討課題がより具体的になりました。質問を通じた対話が、自分の研究をより深く理解するきっかけとなり、大変有意義な時間となりました。

学会運営への参加

学会運営のお手伝いとして受付などを担当させていただきました。学会の裏側に触れ、参加者の先生方とのやり取りを通じて、学会の雰囲気や研究者同士の交流の大切さを肌で感じることができました。

他の発表の聴講

シンポジウムやオーラル発表も聴講させていただきました。自分とは異なる分野・視点からの研究内容に触れることで、非常に刺激を受けました。特に、臨床現場での課題に直結するような研究や、独自のアプローチで課題解決を目指す発表に感銘を受け、自身の研究にも新たな視点を取り入れていきたいと感じました。

おわりに

初めての学会参加で緊張もありましたが、運営、発表、聴講のすべてを通じて多くの学びを得ることができました。今回の経験を通じて、自身の研究に対する理解が深まり、今後の研究活動へのモチベーションが一層高まりました。最後になりますが、ご指導いただいた先生方、研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。

学会での発表の様子を以下に示します。

